

学校名：東海村立村松小学校

児童の命を守る、安全な学校づくりを目指した教職員研修の在り方

1 これまでの課題と活動のねらい

(1) 課題の把握と設定状況

今年度の学校経営基本方針は、『今を生きる楽しさがある学校づくり』であり、重点施策の一つとして活力あふれる児童の育成を掲げている。知徳体のバランスが取れた児童の育成のため、地域と共にある学校という点も、本校の強みとなっている。文部科学省の第3次「学校安全の推進に関する計画」等を基に、児童を取り巻く環境の安全を守る「安全管理」の一環として、定期的・継続的な教職員研修を実施している。職員を対象に傷病者発生時（緊急時）の対応について「対応への自信度」を10段階評価で調査したところ、平均値が3.3であった。この結果から、より効果的な研修の内容や実施方法を検討する必要性が明らかとなり、本テーマを設定した。

(2) 活動のねらい

- 職員研修の内容や実施方法について見直しを図り、教職員の危機意識・知識・技能の向上を目指す。（外部講師の活用を含む）
- 研修から得られた改善点・反省点等を生かし、学校危機管理マニュアルをより実効性のあるものとなるよう、多くの職員で見直し改訂を行う。

2 計画と実践の状況

(1) 計画

時期	内 容	企画・運営担当
4月	研修計画の作成	教務主任、保健主事、養護教諭
5月	緊急時の対応に関する研修（意識調査含む）	給食主任、養護教諭
6月	水泳事故に関する研修	体育主任、養護教諭
7月	シミュレーション研修 *外部講師	保健主事、養護教諭
8月	危機管理マニュアルの見直し アクションカード、緊急時対応記録用紙の見直し	管理職、保健主事、養護教諭 保健主事、養護教諭
8月	救命教育（5年生対象）研修会への参加	東海村教育研究会
9月	エピペンの実技訓練 *外部講師	保健主事、養護教諭
2月	研修成果の検証と次年度の計画案作成	保健主事、養護教諭
随時	発生事例（ヒヤリ・ハット）の情報共有・対応についての検討	対応した職員、養護教諭等

(2) 実践の状況（別添資料参照）

研修内容を計画する際、オリエンテーション型の研修と実際の場面を想定した実働型研修を組み合わせることを意識した。また、緊急時の対応について話し合いをする場面を設定するなど、危機発生時に管理職をリーダーとしたチームとして、適切かつ迅速な意思決定や対応を取るための訓練となるよう工夫した。

学校危機管理マニュアル（一部）の見直しについては、発生事例および研修での反省等を活かしたものと、担当職員で検討後、全職員での共通理解を図った。

3 成果と今後の課題

(1) 成果

- 前述のアンケートを5月の研修後にも実施。「対応への自信度」は3.3→5.7と変容がみられた。
- 児童の傷病が発生した際は、危機管理マニュアルに基づき、重症度に応じて「現場での初期対応」「アクションカードの活用」をしている。

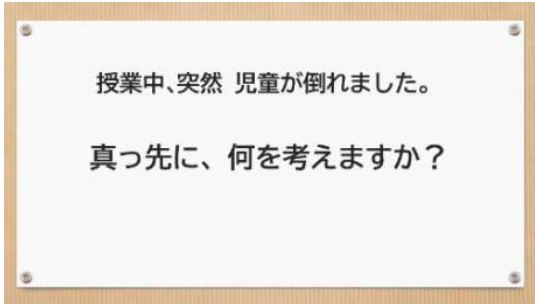
(2) 今後の課題

- 「訓練マネジメント」の考えを意識し、教職員研修・訓練を継続することで、全職員で児童の命を守る、安全な学校づくりを目指す。
- 学校評価アンケートでの「安全に生活することができたか」という項目において、児童自身は93.1%である一方で、保護者による回答は90.5%であった。児童への安全教育の充実も推進していく。

【教職員研修】

・緊急時の対応についての確認研修（5月）

食物アレルギー等健康管理上配慮を要する児童の確認、エピペン使用法の確認、AEDやアクションカードの使用法・配置場所の確認、胸骨圧迫の実技訓練等を短時間（30分程度）で実施した。年度当初に行うことで、チームとして対応することの確認にもなった。



・シミュレーション研修（7月）

これまでのシミュレーション研修よりも、実践に近い形での訓練となるように、平常勤務の配置についての状態で傷病者発生を想定したものとし、「突然、倒れてからAEDによる電気ショック実施」までの流れを確認する研修で、6分5秒を要した（実際には5分以内が望ましい）。グループごと→全体という形で振り返りを行った。立川法正救急医からの指導助言を得ることで、想定される事案や対応の確認を行うことができた。

危機管理マニュアルの見直しについては、担当者だけでなく、本研修のシミュレーション後に反省点、改善点を全員でディスカッション（討論）することで、全体での共通理解を図ることもつながった。



・エピペンの実技研修（9月）

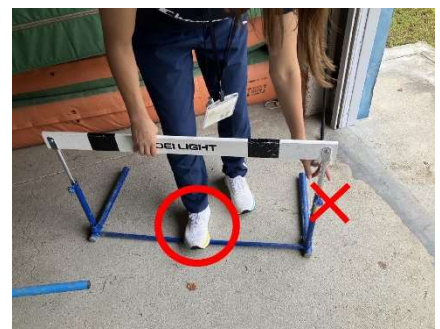
株本紀子学校薬剤師の協力を得て、使用期限を迎えたエピペン実機を使用しての訓練を行った。「複数の職員で、一つ一つの手順を確認（声掛け）しながら落ち着いて対応するように」との指導を受け、職員からは不安が低減できたとの感想が聞かれた。



・発生事例（ヒヤリ・ハット）の検討（随時）

症例の大小にかかわらず、再発防止のために情報共有や対応の検討を行うようにしている。

けがの予防につながるように陸上競技（ハードル走）の器具使用に関する研修等も行った。



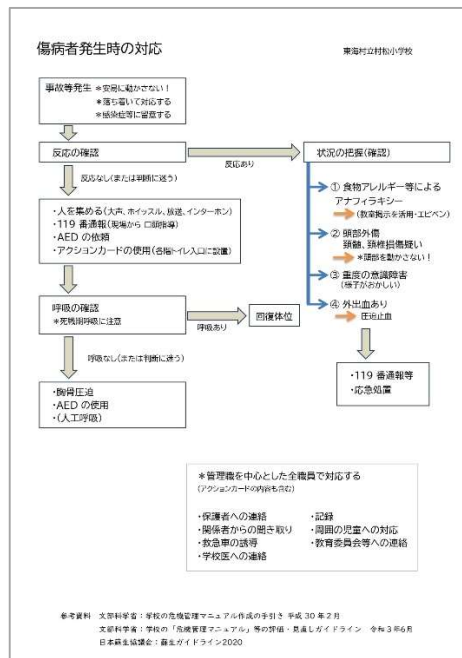
【学校危機管理マニュアル（一部）の見直し】

・傷病者発生時の対応

対応についてのフローチャートは、水泳学習におけるもの、傷病者発生時のものについて見直しを行った。

これまでの多くのものは「誰がするか」ということに視点があつた。事前の役割分担が必要な場合もあるが、緊急性の高いものに関しては、役割分担より（誰がやるかより）具体的に何をやるかが大切なため、「何をやるか」ということに視点を变えることで管理職を中心として全職員で対応できる体制づくりを目指した。

事象	専任者	専任者以外
緊急事態発生時 ・発熱発症や位置に応じた連絡計画 ・無理な練習や過度な練習の中止がないよう注意する。 ・児童一人ひとりが安全に習得する知識や技能を身に付け、積極的に自らの安全を守れるようになる。	・動かない ・保護者の有無等をチェック ・（確認する場合は直ちに救急車を要請） ・加害者による事故原因から自衛した場合は、速やかに受診 ・保護者、関係者等から十分な保護を確保し、保護者の同意を得た上で、適切な対応を行う。	・保護者の有無を確認し、必要に応じて保護者を呼び出す。 ・保護者の有無を確認し、必要に応じて保護者を呼び出す。
緊急事態発生時 ・保護者またはWIGIT（非常用広域及び非常用無線機）等 ・「緊急事態発生アラート」（児童用）を起動して通報する。 ・コミュニケーションの確保、安全確保	・対応可能な範囲で、必要に応じて保護者を呼び出す。 ・保護者の有無を確認し、必要に応じて保護者を呼び出す。	・保護者の有無を確認し、必要に応じて保護者を呼び出す。
緊急事態発生時 ・学校生活管理指導者を確保した取組（献立の確認、給食時間における配慮）を確認し、全教職員及び関係機関間で共有する。	・緊急事態発生時 ・緊急事態発生時 ・緊急事態発生時	・緊急事態発生時 ・緊急事態発生時 ・緊急事態発生時



119番通報についての掲示
新型コロナに対応したものから改訂

慌てない、落ち着いて。119番通報は現場・携帯電話から！！

通報・救急搬送の際のチェックリスト

- 年齢(生年月日)の確認
- 既往症の確認(既往疾患等)
- 家族状況(家族構成等)をコピー(前乗車・救急車・救急搬送)
- 受診時の状況(医師からの指示)を確認し、必要に応じて対応する
- 救急車の誘導
- 時系列での記録

救急車に同乗する職員が留意すること

- 携帯電源と充電の数を増やす
- 保護者などについて合意を確保する
- かかりつけ医連絡先を確認する
- 受診時の状況を把握し(監督者の職務を含め、より詳細に)する

・アクションカード

研修の反省を生かして昨年度から導入している。導入の際には、職員からの意見で記録用紙・筆記用具・人工呼吸用のマウスシールドを添付している。今年度は、救急車の誘導を状況に応じて複数か所に配置すること、という改訂を加えた。本校は、「各トイレ付近」と「AEDと一緒に場所」に設置している。

緊急時に使用するアクションカードです。

使用前に必ず下枠内を確認します。

第一発見者は「大丈夫ですか？」と声をかけながら声をかける。反応がない、もしくは(けいれんなど)反応があるか判断に迷う場合は、応援を呼ぶ・119番通報・AEDを依頼・カードを準備。これを同時進行で行います。(カードだけに意識を向けないように注意してください)

このまま印刷して、枠ごとにカットしたものを、表裏で両面合わせてラミネートします。1か所をリントクで糊して、救急車誘導(各トイレ付近 AED設置場所)に貼付しておきます。

記録用紙は、リントクから取り出し、それぞれを袋に入れて保管します。資料は毎朝消毒し、赤粉状消毒剤に消毒し乾燥させます。

使用時には、カードが欠けたり変形したりしないように確認します。

緊急時、記録(時刻・内容)を残すことが重要です。

デジタル端末のメモ機能(音声入力)を活用すると、簡単に記録できます。

保護者連絡

□ 緊急連絡票・保健調査票で、連絡先を確認する(連絡先確認済)
 □ 状況を伝える(持ち来た時)
 □ 救急車が搬送する病院を知らせる
 □ 管理職に報告する

記録

□ 応急手当の職員の間で、記録用紙を使用し記録する(記入共有)
 □ 救急隊員(保護者)に記録内容を説明する(応急処置担当者と一緒に)
 □ 管理職に記録内容を報告する
 □ 記録用紙を保管する

119番通報 現場から!

□ 学校の住所 東海村小1443-2
 電話番号 029-282-4885

「いつ、それが、どうして...」
 現在どのような状態なのか?」
 □ 指令番号から口頭で指導を受ける
 □ 通報後、管理職に連絡する
 □ 救急車から連絡が入ることがあるので、通報に使用した回線は空けておく

救急車誘導

□ 西門(1階階段)に立ち、救急車を誘導する(状況に応じて誘導する)
 □ 西門に児童生徒がいる場合は、安全を確保するために誘導する
 □ 必要に応じてサイレンの音を切ってもらおう

保健調査票コピー

(保健調査票保管場所:保健室)

□ 保健室戸棚にある保健調査票をコピーし、
 救急車同乗者 および、
 医療機関への引率者に渡す

他の児童生徒への対応

□ 現場から児童生徒を移動させる
 □ ブルーシート・人垣等で目隠しをする

救命処置 (人工呼吸)

窒息・溺水等が疑われる場合

①鼻をつまんで気道確保
 ②1秒吹き込んで、1秒はなす
 うまくいってもいなくても2回

胸骨圧迫:人工呼吸は30:2の割合で繰り返す

救命処置 AEDの使用

昇降口外側・体育館の内側

□ 最初に電源を入れる
 □ 音声メッセージをしっかり聞く
 □ 周りを静かにさせる
 □ 電気ショックのときは離れる

救命処置 呼吸の確認

呼吸の確認
 上からのぞきこんで、管経通りの呼吸かどうか
 胸・おなかの動きを確認する(5-10秒)

胸骨圧迫

胸骨圧迫 [強く!速く!絶え間なく!]
 □ 5cmの深さ
 □ 100-120回/分の速さ
 □ 胸骨中央に当てる(手関節は短く)
 □ 胸骨の下部分

アクションカード

慌てない 落ち着いて チームで対応!!

救命処置カード 青枠
 □ 呼吸の確認 □ 胸骨圧迫
 □ AEDの使用 □ 人工呼吸

応援メンバーカード 赤枠
 □ 保護者連絡 □ 記録
 □ 119番通報 □ 救急車誘導
 □ 保健調査票コピー
 □ 他の児童生徒への対応

これからの社会を生き抜く子どもたちには、「いかなる状況下でも自らの命を守り抜き、安全で安心な生活や社会を実現するために自ら適切に判断し主体的に行動する態度の育成を図ることが重要である。」とされている。

休み時間等、子どもたちが心停止等の第一発見者になる場面も想定されることや、中学校での学習のスムーズなつながり等を考慮し、東海村では、教育研究会養護教諭部会が中心となって、村内全小学校で教諭による発達段階に応じた救命教育を展開している。（令和6年度より）

また、本校ではPTA主催の保護者対象心肺蘇生・AED講習会を開催している（令和4年度より）。

【児童への発達段階に応じた救命教育の実施】

①5年生を対象とした救命教育

東海村独自の内容で作成している。胸骨圧迫をできるようにすることを目的にするのではなく、「自らの命や安全確認がもっとも大切であること」「自分にできることは何か考えて行動すること」また、場合によっては「急がなければいけないことを理解すること」の重要性を伝える内容としている。



②廊下掲示板の活用

救急の日に合わせて、一次救命処置の内容を掲示している。

小学校という発達段階を考慮し、胸骨圧迫は「大人に任せてOK!」とのメッセージを添えている。

実技訓練用の教材も配置し、児童が自由に胸骨圧迫の実技を体験できるように工夫した。

「先生！音が鳴ったよ!」「パプリカのリズムってこのぐらいかな?」などと、興味をもっている様子が見られた。



【保護者と連携した講習の開催】

令和4年度より本校養護教諭が講師となり、PTA主催の講習会を実施している。学校安全の視点からも、保護者とも連携・協働する体制を継続していく。児童対象の救命教育を実施していることもあり、親子で共通の話題として取り扱われた事例もあった。

講習会に参加した保護者からは以下のようなものが挙げられた。

- ・心肺蘇生法の講習は過去に何度か受けていたが、最近では受けていなかったため、以前と変わった部分を知ることができて勉強になった。定期的に受けたいと思った。
- ・子どもが学校で学習してきたと聞いて、自分も受けてみたいと思った。
- ・同じ学校の保護者の皆さんとの受講だったので和やかな雰囲気、質問などもしやすく、本物のAEDを体験できたのも良かった。

